図画工作　小学校第５学年　「願いを形にたくして」

●これは、「埼玉県小学校教育課程指導資料　平成２２年３月」のＰ１２１～１２３を基に、加筆・修正して作成したものです。
「粘土の特徴を生かしながら想像を広げ、つくり方を工夫して自分の気持ちを表す」ことを目標として、感じたこと、想像したことを立体に表す活動です。
展開中の1から4は、以下の**【課題解決のための授業改善の視点】**のそれぞれの取組であることを表します。

【課題解決のための授業改善の視点】
1　見通しを立てたり振り返ったりする学習活動
2　〔共通事項〕を意識した指導と評価
3　表現及び鑑賞の能力を高める言語活動の充実
4　活動の場・学習環境の充実

図画工作科では、「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」を高めるために、言語活動の充実を図ります。発想や構想を深めたり、見方や感じ方を発展させたりする活動が期待されます。

【本時の目標】粘土の扱い方をいろいろと工夫し、できる形や空間から想像を広げてつくる。（発想や構想の能力）発
手や指先、体全体を動かしたり、へらなどの用具を思いのままに扱ったりするなど、粘土の特性を生かしながらつくる。(創造的な技能) 創

過程	学習活動 予想される児童の具体的な発言（「」）	指導の工夫 （〔共〕：〔共通事項〕に係る内容）	評価と手立て 観点発・創：評価規準、【評価方法等】 ☆：十分満足できる状況（B判断児童を伸ばす手立て） △：Ｃ判断児童への手立て ★教育に関する３つの達成目標との関連 ◎学力向上プランとの関連
	あらかじめ活動時間を伝え、常時見えるよう板書等で明示しておきます。1		
	提案　自分の心の中の大切な願いや気持ちを思い起こし、工夫して形に表してみよう。		
導入 5分	1　教師の提案を聞き、本時の活動のおよその見通しをもつ。 ※既習事項の確認（粘土でできること） 「気持ちを表すのか。もやもや、ぐるぐるのイメージも面白いな。」	○　心の動きや様子を表現することや言葉のイメージについてとらえられるように、気持ちを形に表す活動を教師が演示する。 ○　思い付いたことを試しながら表現を発展していくことができるように、何度も形をつくり直すことができる粘土の特徴や粘土の既習事項を確認する。	★学習の準備を整え、授業にのぞむことができる。 ◎学習の見通しをもてるようにする。
展開 30分	2　粘土の扱い方を工夫しながら想像を広げ、大まかな構想を練る。 「細長く伸ばしてみようかな。」 「固まりにして、指で穴を開けてみよう。」 「ねじってみると、悩んでいる気持ちみたいになってきたぞ。」 「うまくいかないな。もう一度つくり直してみよう。」 「ここをひねり出してみよう。」	○　粘土をのばす、丸める、ひねる、巻く、積むなどの活動を通して、形や奥行きの特徴をとらえ、自分のイメージをもてるようにする。そのために、低・中学年で取り組んできた粘土の扱い方を振り返ったり、粘土に触れ、工夫しながら大まかな構想を練ったりする時間を設定する。〔共〕 ○　児童の活動への思いや願いを共感的にとらえるように、表情や活動の様子を観察したり、対話したりする。	
	3　粘土の特徴や立体、空間の生かし方を工夫して、自分の気持ちを形に表す。 ①　粘土でできることを生かし自分の気持ちを表す。 「小さい団子をつくって高く積み重ねてみよう。」 「粘土を積み重ねて夢に向かって頑張ろうという気持ちを表そう。」 「うーん、ここまでできたけど…。そうだ、穴を開けて向こうが見えるようにしよう。何か、心の中にも穴があいた感じになってきたな。」 「ひねり出すととげとげした感じになった。チクチクして痛そうだ。」	○　活動に広がりや深まりが現れるように、粘土でできる表現方法をともに考えたり、形を工夫している児童を紹介したりしていく。また、表したい思いや願いにそって、形にこだわり、試行錯誤しながら表現を追求している児童を称賛するとともに、その姿を紹介していく。 ○　効率よく活動を進めていくことができるように、必要に応じて、粘土に穴を空けたり、削ったり、掘ったりする用具を紹介していく。 ○　思いを徐々に明確にしていくことができるように、できてきた表現を基に教師が積極的に対話を行い、その意図を確認していく。また、表現と鑑賞の活動が一体的に行われるようにするために、自分の作品を見つめ直す時間をつくる。 ○　自信をもって活動を進めていけるように、自分なりの思いにそってつくった形についてそのよさを認め、価値付けていく。	◎粘土の特性を生かして表現している児童を称賛し、意欲を高める。 発　粘土の扱い方をいろいろと工夫し、できる形や空間からイメージ　を広げてつくる。　【表現・対話】 ☆：心の内を言葉にしながらイメージを広げたり、深めたりしている。（奥行きや空間等を意識するように声かけする。） △：発想が浮かばず、思いが滞っている児童には、表したい気持ちについてともに考え、言語化しながら、イメージをもてるようにする。

今日の学習のめあてを示し、児童の興味・関心を高めるとともに見通しをもてるようにします。ここでは演示しますが、試作や参考作品を用意することも考えられます。ポイントは、短時間で効果的に行うことです。1

形や奥行きをキーワードに、試しながら活動しています。手を動かしながらイメージが生まれてくる児童もいます。このため、活動時間を計画的に確保します。2

他の児童への紹介は「評価」でもあります。ねらいに即した活動について具体的な言葉で褒め、他の児童へ広げていきます。（デジタルカメラ等で撮影しておき、終末で紹介することも有効です。作品の変化から気持ちや学びを確かめる等の工夫もできます。）2

イメージを形に表していく過程を見守り、必要に応じて対話しながら思いを把握し、助言します。3

言葉のイメージから形に表すことを言語活動の一つと捉えています。児童は「○○な感じを□□しよう。」等と発想や構想の能力を働かせています。これを高めるために、十分な活動時間の確保と適切な指導が必要です。

本題材の〔共通事項〕のキーワード（形・奥行き・イメージ）について児童と共感的に対話し、それを具体的な言葉でアドバイスするようにします。（例：なるほど、夢に向かう気持ちを表しているんだね。ここの重なりが空間をつくって面白いね。今度は積み上げる方向を工夫してみてはどうかな。）2

	↑　①と②は行き戻りする　↓ ②　自分の表したい気持ちに合わせ、その表し方を工夫する。 「もっと、力強くしたいな。粘土の量を増やしてみようかな。」 「思いが天に届くように高くして、先をとがらせてみようかな。」 「もっと、もやもやした感じにしたいな。ぐるぐる模様をつけてみようかな。」		創　手や指先、体全体を動かしたり、へらなどの用具を思いのままに扱うなど、粘土の特性を生かしながらつくる。【表現・行動観察・対話】 ☆：用具を効果的に扱い、粘土の特徴を十分に生かしながらつくっている。（様々な方向から自分の作品を見つめさせ、さらにいろいろと試してみるように助言する。） △：用具や粘土の特徴を生かすことができていない児童には、へらの扱い方を一緒に確かめたり、粘土を水で少し軟らかくしたり、椅子から立ってつくったりすることを助言し見届ける。
整理 10分	4　本時の活動を振り返り、自分の学習状況を確認するとともに、友達の製作について知る。 「私はもやもやした気持ちを表したくて、ぐるぐるした形を模様のように重ねていきました。」 「ぐるぐるした部分からその気持ちが伝わってくるね。」 「もっといろいろな方向に伸びていっても面白いかもしれないね。」 5　片付けをする。	○　表現したもののよさを見付けられるように、一単位時間ごとに学習活動を振り返る機会を設定する。 ○　本時の学びを確認するため、粘土の特徴を生かした表し方に関心をもっている児童を称賛する。 ○　次時に向けて意欲を高めるために、込められた気持ちを肯定的に鑑賞することを指導するとともに、全体の活動の様子を評価する。 ○　効率よく片付けをするため、作品置き場にクラス・班の表示をしておく。	★先生の話や友だちの発表をしっかり聞き、自分の考えを伝えることができる。 ◎振り返りの場面で考えたことを自分の言葉で発表できるようにする。

製作していく中で、行き戻りが自然と行われますが、これを意図して指導します。また、このことを踏まえ、友人の製作が目に入る（参考にできる）ようにグループで活動するようにしています。2 4

児童が自分の言葉で発表できるように支援します。このときに、作品を全員が見られる工夫をします。（持ち上げると壊れてしまうことがあります。デジタルカメラ等を大型TVにつないで見せることも有効です。） 3 4

片付けが効率よくできるよう、明確な指示と作品置き場の工夫をします。学校で統一したルールがあると一層の効率化が図れます。 4

【板書計画】

板書にも課題（めあて）を明示します。そして、本時の振り返りの際にも活用します。 1

願いを形にたくして

自分の心の中の大切な願いや気持ちを思い起こし、工夫して形に表してみよう

ねん土でどんなことができるかな？

のばす　積む　丸める　かき出す　ひねる　穴開け　まく

空間
奥行き

イメージ

願い・思い…言葉にしてみると

夢　感情…もやもや、ぐるぐる　など

○○になりたい・したい

《学習計画》　２時間

1　大まかな構想をねる。
・ねん土ならではの表現をしよう。

2　自分の気持ちを表す。
・ねん土の特徴を生かして。
・空間を意識して。

活動時間
○○：○○まで

3　鑑賞会を行う。
・自分の思いを伝えよう。
・友達の作品を味わおう。

※参考作品を提示する場合

※最初だけ提示するなど、実態にあわせましょう。

１単位時間の授業の流れがわかるように板書計画を立てます。製作の途中に確かめたり、ヒントにしたりできるように、意図的な板書をします。この学習で「使わせたい言葉」（〔共通事項〕のキーワードや既習事項等）を残しておくことが大切です。 1 3

【場の設定】図画工作室

※１班４～５人
（生活班を活用）

黒板　教卓

全体での
話し合い
の場

1班　2班　3班
4班　粘土置き場　用具置き場　5班
6班　7班　8班

工作台（机）の配置を工夫し、中央を粘土置き場にしています。工夫のポイントは、児童の動線を考えて、流し場の位置や作品置き場等に配慮することです。 4

粘土べらは、必要とする児童が使えるように準備しておきます。用具を取りに行きながら、他班の児童の活動の様子を見られるようにすることも意図しています。 4

※その他の工夫として埼玉県教育課程指導資料Ｐ１２３の「授業改善のヒント」が参考になります。

授業の導入と終末に集まる場があると、話し合いに集中しやすいものです。しかし、時間をかけ過ぎないようにすることもポイントです。 1

参考　小学校学習指導要領解説　図画工作編（文部科学省）
埼玉県小学校教育課程指導資料（埼玉県教育委員会）
埼玉県小学校教育課程評価資料（埼玉県教育委員会）
言語活動の充実に関する指導事例集（文部科学省）